

令和5年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会 会議録

日時 令和5年7月14日（金）午後2時00分～3時42分

会場 北区飛鳥山博物館 2階講堂

【出席】

運営協議委員一君塚仁彦会長、吉富友恭委員、有馬純雄委員、石原淳委員

阿久津光生委員、木下怜委員

博物館 一坪井宏之館長、鈴木直人事業係長・学芸員・松本みさお管理運営係長

久保埜企美子主査・学芸員、山口隆太郎主査・学芸員、

牛山英昭主査・学芸員、安武由利子学芸員、高坂勇佑学芸員、

佐々木優学芸員、田中葉子学芸員、工藤晴佳学芸員、谷口とし学芸員

【欠席】

長濱恵美子委員、櫛野治和委員

【事務局】 ただいまから、令和5年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会を始めさせていただきます。本日の予定につきましては、お手元の次第をご覧ください。

それでは、北区教育委員会を代表しまして、この4月に当館に着任いたしました館長よりご挨拶申し上げます。館長、よろしく申し上げます。

【館長】 皆様こんにちは、この4月に飛鳥山博物館に参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、また暑い中、飛鳥山博物館運営協議会にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症対策が、今年の5月で5類に移行いたしまして、通常どおりのコロナ前の状況に戻ってまいりました。飛鳥山博物館の今年度の事業運営に関しましても、ほぼコロナ以前の運営状況に戻ってきている状況でございます。

間もなく区内の小・中学校におきましては夏休みに入ります。私どもの事業といたしましては、恒例の「夏休みわくわくミュージアム」に、今年は例年よりも増して、たくさん

来ていただけるのではないかと期待しておるところでございます。

本日は、この後、昨年度の事業報告をはじめまして、博物館の在り方につきましてご審議をいただきたいと思っております。委員皆様の幅広いご知見等、ご意見、また提言等を本日いただきたいと思っております。

簡単ではございますけれども、私の開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 つづきまして、配付資料の確認をさせていただきます。

お手元に3種類、本日の次第、座席表、本日ご欠席長濱委員のご意見を送っていただきましたそのプリントをお配りさせていただきました。3点につきましてはお手元におありでしょうか。

ありがとうございます。

事前に本日の資料としてお送りいたしました令和4年度事業報告と、資料「北区飛鳥山博物館のあり方の検討」というプリントでございますが、こちらのほうを本日お持ちでない委員様、いらっしゃいますでしょうか。

ありがとうございます。

この運営協議会につきましては、区の方針に基づいて会議の内容を議事録として区のホームページで公開させていただきたく存じます。記録を作成いただきます関係で録音を取らせていただきますことをご了承お願いいたします。なお、議事録は事前に委員の皆様にご確認をいただきましたうえで公開いたします。

また、会議は公開をさせていただきますので、傍聴を希望される方が同席される場合がありますことをご了承いただきたいと思います。現在のところはお見えにはなっていらっしゃいませんが、その際はよろしくお願いいたします。

本日、委員9名のうち6名の方にご出席いただいております。東京都北区飛鳥山博物館条例施行規則第12条第2項に定められました開催要件でございます、半数以上の出席を満たしておりますことをご報告いたします。

それでは、この後、今後の協議会の進行につきましては君塚会長にお願いしたいと存じます。君塚会長、よろしくお願いいたします。

【議長】 令和5年度第1回の北区飛鳥山博物館運営協議会を開催したいと思います。

本日の協議会の議事は、「令和4年度博物館事業報告」と「北区飛鳥山博物館のあり方の

検討」の2点でございます。この2点について協議いたします。

まず、令和4年度の事業報告について、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは令和4年度の事業報告について、ご説明させていただきたいと思っております。着席したままで、失礼いたします。

お手元でございます、令和4年度事業報告でございます。昨年度の第2回の運営協議会におきまして、12月までの中間報告をご報告させていただきました。その後、1月、2月、3月の成果を踏まえまして、令和4年度事業報告といたしたいと思っております。今回はその変更がございましたところを中心に、ご説明させていただきたいと思っております。

まず、1ページ目館利用状況、入館者数でございます。

入館者数は11万804名でございます。令和3年度は17万3,168名という数字が出ておりますが、令和3年度は大河ドラマ館が開催されていた関係上、17万3,168という数字になっています。通常のものと比較いたしますと、コロナ前の令和元年度でございますが、令和元年度が11万4,754人でございますので、令和4年度はコロナ前の状況にほぼ戻っているのかなというふうに考えております。

続きまして、常設展示観覧者数でございます。こちらのほうも1万7,263人。令和3年度は5万4,960人と大幅の減になっておりますが、こちらのほうも大河ドラマ館の関係で、大河ドラマ館をご覧になった方は常設展示も一緒にご覧になれるというような、特典のような形でございますので、常設展示室のほうの観覧者数が令和3年度は大幅に増えているような状況でございます。こちらもコロナ前の令和元年度と比較しますと、令和元年度が1万7,465人ですので、ほぼコロナ前の状況になったと考えております。

続きまして、2ページ目展示でございます。

展示は令和4年度、合計8回、288日間、248営業日、5万8,472名という形でございます。令和3年度は3万1,628名と、大河ドラマ館の開館期間であった令和3年度はドラマ館がある関係上、企画展を開催することができず、スポット展示、規模の小さな展示に置き換えて行った関係上、令和3年度は3万1,628名と少なく、令和4年度は5万8,472と大幅に増えた状況でございます。コロナ前の令和元年度と比較いたしますと、令和元年度が5万9,719名ですので、ほぼ同じような状況になったというふうに考えております。

続きまして、4ページ目でございます。

春期企画展「I♡スーパー スーパーマーケットのチラシにみる昭和」を開催いたしました。こちらのほうは年度をまたいだ開催でございます。令和4年度から令和5年度、2回開催いたしました。令和4年度に関しましては11日間、10営業日でございますが、総日数でいきますと55日間、48営業日となっております。

続きまして、6ページ目学校対応事業展示「来て、見て、知って!昔のくらし展」を開催しました。小学校、中学校の社会科での単元「古い道具と昔のくらし」に対応する事業として行われ、一般にも開放し展示を行わせていただいたものでございます。

続きまして、7ページ目ミニ展示、アンコール展示「ドナルド・キーン展 私の愛した日本」を開催いたしました。会期2月22日から3月31日でございます。こちらのほうも年度をまたいでおりますので、総会期は5月14日まで開催しております。こちらの展示に関しましては、ドナルド・キーン生誕100年記念事業ということで、平成24年に開催した展覧会を再現して、展示を行ったものでございます。展示場所は3階の閲覧コーナーを使って行いました。

続きまして、10ページ目、講座・講演会でございます。

講座・講演会に関しましては、令和4年度は66講座、89回、2,123名のご参加をいただきました。令和3年度が10講座、10回、119名というのは、これはまさにコロナの影響というところでございます。66講座、89回、2,123名のご参加でした。コロナ前の令和元年度と比較いたしますと、令和元年度が49講座、74回、2,652名という形でございます。令和4年度に対して令和元年度講座数は、参加者数が若干多くなっておりますが、令和4年度の講座は、コロナの関係で講座の応募者数を絞った形で行いましたので、その関係上講座数に対して、参加者は2,123名という形になりました。

続きまして、一般講座、それから企画展・特別展覧会に関連する講座がございます。29ページ以降66講座でございます。その中で、先ほどご報告いたしました春期企画展の関連講座ということで、「〈昭和のスーパー風物詩〉ちんどん屋がやってきた!」ということで、実際にちんどん屋の実演を行って、昭和のスーパーの歴史ですとか、ちんどん屋の活動などを対談形式で解説を行ったところでございます。

続きまして、36ページ団体見学でございます。

団体見学は49団体、2,003名でございました。令和3年度39団体、1,377名より、若干多くなっております。コロナ前の令和元年度と比較いたしますと、令和元年

度は70団体の団体見学がございました。数字で見えていきますと、やはりまだコロナの影響で団体見学を控えている方々が多いのではないかと考えております。

続きまして、40ページ目学校対応・支援事業「来て、見て、知って!昔の暮らし」を開催いたしました。こちらは区内の小学校にご参加いただく形を取っており、参加学校数が34校のご参加がありました。

続きまして、46ページ目資料の利用でございます。

令和4年度で3月までの利用数が80件、そして利用件数が305点ございました。

以上で令和4年度のほうの中間報告後のことを中心に、事業報告を行いました。

【議長】 ありがとうございます。

ただいま事務局から令和4年度の事業報告をお話いただきました。ぜひ委員の皆様からご質問、ご意見等をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

委員A、お願いします。

【委員A】 40ページの学校対応・支援事業ですけれども、3つのコースから選択できるようにしたということで、どのコースの人気があるとか、そういうことは分かるのでしょうか。

【事務局】 「かまどコース」「せんたくコース」「ふろしきコース」とございますが、やはり「かまどコース」はかなり人気がある体験でございます。「せんたくコース」は、やはり冬は寒いということもあるのか、あるいは洗濯そのものは学校でも洗濯板を習えている可能性がございますので、やろうと思えば可能だということもあるかと思えます。ただ、かまどに関しましては火を扱ったりしますので、かまどコースに割と集中するような傾向があるのではないかと分析しております。

【委員A】 ありがとうございます。

【議長】 ネーミングも非常に面白いですね、かまどコースがやはり人気があるということが分かりました。ありがとうございます。

委員B、お願いいたします。

【委員B】 ご説明、ありがとうございました。

前回、この協議会で伺ったときに、ちょうど開催中の春期企画展「I♡スーパー スーパーマーケットのチラシにみる昭和」を見せていただいて、非常に面白いなと思って感心しておりました。ご説明あったように「ちんどん屋がやってきた」という実際の講座形式のようなイベントも開催されたということで、そうした連動しているイベントもすばらしいなと思いました。

このちんどん屋に関しては、29名参加されたということですが、こちらは実際に参加されたのはお子さんが多いのか、それとも大人のほうが多いのか、いかがでしたでしょうか。

【学芸員】 I♡スーパーを担当させていただきました。

ちんどん屋のイベントにつきましては、お子様はほとんどいらっしゃらず、どちらかというと、20代から5、60代の方まで、懐かしく思われる世代の方が多く来館されました。残念ながら当日、雨がひどく降りましたので、公園内の練り歩きなどもできなかったのですが、エントランスの前で最初にデモンストレーションを行いましたときは、たくさんの方が足を止めていらっしゃいました。

よろしいでしょうか。

【委員B】 ありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。本当に素晴らしい企画だったかと思います。

ほかに何か、ございませんでしょうか。

よろしく願いいたします。委員C、お願いいたします。

【委員C】 先ほどの学校対応・支援事業ですが、本校も参加いたしました。本校は「ふろしきコース」を選択して、大変子どもたちはめったに体験できないということで、すごく充実した体験をさせていただいたと感謝しております。

この34校という数字は、実はこれ全部の小学校です。それだけ参加したということはすばらしいなと。ちなみにこれは売り込みというか、プッシュをしたのでしょうか。本校

も、教員が参加したいと言ってきたので、参加することは知っているのですが、募集はどのように行ったのでしょうか。

【事務局】 「来て、見て、知って!昔のくらし」は、校園長会で学校にご説明させていただき、募集要項などを各学校さまにお配りし、それで希望の日時を載せたものをこちらに戻していただきまして、重複している日時に関しては抽選のような形で、第一希望、第二希望、第三希望で割り振らせていただいております。

【委員C】 ありがとうございます。プッシュ型がありがたいと思っております。ただ、ホームページに載せて待っているだけよりも、このようにプッシュしていただくと、学校も、ご存じのようになかなか多忙な職場ですので、担任も学習に取り入れる機会が増えますので、ぜひ今後も続けていただきたいと思います。

【議長】 先生、貴重なご指摘だと思います。ありがとうございます。

ほかに。委員D、よろしく願いいたします。

【委員D】 毎年、飛鳥山のほうに1年生を連れて行きまして、それで博物館の中で常設展示を見せていただきまして、本当にありがとうございます。小学校のときに見るのと、中学校で見るとやはり視点が違いますし、学習に取り入れることによって、自分で必要なときに来館するというきっかけを作れるということで、学校でも指導しているところがございます。

そのような中で、私も前回見せていただいたのは、ほりぶんに係わる展示、あれは本当に感動しました。あのようなやり方があるのだと思い、また、今回ちんどん屋ということで、果たして中学生や小学生がちんどん屋を見たときに、何のためにやっているのかとか、そういう疑問を持ってくれたらすごくいいというふうにも思いました。コマーシャルの最初であったりとか、子どもたちは今Y o u T u b e でコマーシャルをやっているのが普通であり、以前はテレビでのコマーシャルであったりとか。ずっとたどっていくと、これが最初のコマーシャルなのだという形で分かっていく、その流れも小・中学生も理解できればいいなと思いました。本当に素晴らしい企画をありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。学芸員さん、何か一言ありますか。

【学芸員】 ありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。本当に素晴らしい企画だったと思いますし、例えば消費者教育とか、いろんなどころの応用可能な内容が盛り込まれているなという感じがいたしました。ありがとうございます。

ほかに何か。委員E、ぜひご指名で。

【委員E】 私は、北区中央図書館で活動区民の会、地域資料会の部会長を仰せつかっておりまして、年に2回ほど、今まで講演会を開いていた当事者でありました。今年から2回開催できないかと思っているのですが。

まず、この資料を見させていただいて、大体40名前後というのが講座にお集まりになられる方の人数であるのかなと推測いたしました。私も経験上、図書館で開催の講演会についても同程度、ホールの大きさに関連しているのですけれども、40名前後ということで、あくまでも私見でございますが、大体北区で歴史に興味がある方々というのは40から50人ぐらいではないかなと、ざっとそのぐらいからコアの方々がいるのかなというふうに。様々な方々がおられますので、コアの40から、もう少し広がりがあるはずですが、講座に参加してみるという実際の行動をされる方はそれぐらいの人数なのかなということを、改めてこの資料を見させていただいて感じたところです。ホールの容量とか、人数制限等を踏まえた上でも、北区の歴史に関心のある方々の大体の行動数、人数なのかなということを改めて見させていただいたという、そういう意見でございます。

【議長】 ありがとうございます。

事務局、今のコメントに対して何かございますか。

【事務局】 ありがとうございます。講座の人数に関しましては、以前は講堂で、椅子席のみを設けると、80名から100名まで入る収容人数でございました。コロナをきっかけに人数制限をかけたもので、80の半分という形で対応していたのですが、やはりもう少し元に戻したほうがいいのではないかとということで、令和5年度は募集を60名に増

やしております。ただ、いきなり80名に人数を増やすと、60名から50名程度というか非常に会場も込みあってもなく、ちょうどいい人数なので、新型コロナの体験から得たものでございますので、今後は60名を基準にしていきたいと思っております。北区で歴史の好きな方を増やしていくよう、進めていきたいと思っております。

【議長】 ありがとうございます。委員E、そういうことでございますので、よろしく。

【委員E】 分かりました。ありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。

ほかに委員の先生方から意見、質問等ありますでしょうか。

お手元に先ほどご案内がありました、委員Fから出ているコメントもございますので、せっかくですので私から読み上げさせていただいて、議事録に残したいと思えます。

長濱委員です。協議会資料を事前に拝見させていただきました。議事、令和4年度博物館事業報告につきまして、了承させていただきます。実際に企画展等見学させていただきましたが、全てにおいて興味深いものでございました。個人的には「縄文料理と弥生ごはん」で、過去に発掘に携わった藤岡神社遺跡の柴犬に再会することができ、感動いたしました。他地域の遺物等を展示することは視野も広がり、有益かと存じます。学芸員の皆様のご尽力には頭の下がる思いでございます。

というようなコメントをいただきました。ありがとうございました。

ほかに質問、意見等ありませんようですので、これは承認事項になりますので、よろしければ拍手でご承認いただければと思います。

(拍手)

【議長】 無事、ご承認いただきました。ありがとうございます。

それでは、2件目の議事「北区飛鳥山博物館のあり方の検討」について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは議事2件目でございます。お手元のA4の裏表2枚つづりの資料を基に、ご説明させていただきたいと思えます。

「北区飛鳥山博物館のあり方の検討」についてです。趣旨でございますが、読み上げさ

せていただきたいと思います。

北区飛鳥山博物館は平成10年、1998年に開館しましたが、館の運営事業の明確化のため7年後の平成17年、2005年に博物館のあり方をまとめました。これに基づき様々な課題をクリアしていただいた結果、多くの方々が集う博物館として成果を上げてまいりました。しかし、目まぐるしい社会情勢の変化に伴い、博物館のあるべき姿を再び検討する必要が生じ、平成26年、2010年に、これからの北区飛鳥山博物館のあるべき姿についてまとめました。こちらにつきましては、参考資料として送付させていただいたものでございます。

次に訂正がございまして、令和4年、2023年でございますが、これ令和5年の間違いでございました。申し訳ございませんでした。令和5年、2023年に修正させていただきたいと思っております。

当館は開館25年を迎えました。最初の博物館のあり方をまとめてから、おおむね20年、あるべき姿をまとめてからも10年が経過しております。そこで、これからの社会情勢を見据えた博物館の在り方を再び検討いたしたいと思っております。さらなる少子高齢化や財政的な問題など、社会情勢の移り変わりも予想されます。また、学芸員の交代も進み、博物館を取り巻く環境は変化していきます。

そこで運営協議会の委員の皆様、北区飛鳥山博物館の望ましい姿とはどのようなものなのか。理想とされる博物館にするためには、今後何が必要なのかをご検討いただきたいと思います。

検討の流れでございますが、令和5年度今回、第1回で「10年後はこんな博物館になってほしい」ということで、委員の皆様、フリートキングでご意見を寄せていただければと思っております。それを踏まえて、今回のまとめと課題を抽出したものを、第2回に「理想の博物館に向けての課題」という形で進めて行きたいと思っております。そして、令和6年度でございますが、第1回で「課題を解決するためには」ということで、前回のまとめと解決方法の検討を行い、そして第2回にまとめを行うという形を取らせていただきたいと思います。

そこで第1回の協議会で検討していただきたいと思いますことでございますが、議題は「10年後はこんな博物館になってほしい」ということです。内容でございますが、10年ひと昔と言いますか、今はそれよりも早いスピードで目まぐるしく社会は変化しています。10年後の社会情勢を見据えることは容易ではないのかもしれませんが、理想とされる博物館の

姿を検討していただければと思います。子どものためには、今後どのような博物館が理想なのか。高齢化社会が進む中、どのような活動が望ましいのか。区民にとっての博物館とは、委員の先生方それぞれの知見でご意見を寄せていただければと思います。

参考でございますが、今後予想される博物館を取り巻く環境変化ということで説明させていただきます。例えば、少子高齢化が進む、情報社会のスピードアップ、大きな地震・被災が起きる可能性が高い、グローバル化が進む、余暇活動の多様化、SDGs、こういったことが今後の博物館を取り巻く環境変化として予想されるものでございます。

館の抱える課題でございます。学芸員の交代、収蔵スペースの不足、運営体制の維持、設備の改善、常設展示のリニューアル、広報のさらなる充実、こういったことが課題としてあるのではないかと考えております。

以上のことで、委員の皆様にご意見を賜りたいと思っております。

以上でございます。

【議長】 ありがとうございます。今の事務局からご説明がありましたように、本館も25年を迎え、中長期的な見通しを基にいろいろな活動を組み立ててゆくことが求められており。10年後はこんな博物館になってほしいと、博物館の存在そのものが価値のある時代は、とうの昔に過ぎておりまして、どのように活用されるか、どのように区民の方々に使い込まれるかということで、新たな価値を創造する時代に入っております。

その中で、飛鳥山博物館はかなり全国的に見ても意味のある実績を積み上げてこられているのではないかと思います。片や、やはりいろんな課題もあろうと思います。そこで、10年後、西暦で申しますと2033年、和暦で申しますと令和15年には、こういうような博物館であってほしいというような、その姿を想像しながら、今、お配りいただいている資料の裏側に、今後予想される博物館を取り巻く環境変化というものがございます。例えば、情報社会のスピードアップというのは、チャットGPTが典型例ですが、日進月歩でございまして、1週間とか2週間の単位ではないということで、私も含めて学校現場はかなりの対応を迫られているとか、社会に与える影響はかなり大きいと思います。

それから、国際的な約束事でもありますから、外すことができないSDGs、17の目標に関して、博物館活動がどういうふうにコミットしていくのかということや、様々な社会変化というのが予測されます。

また、館の抱える課題というのが幾つか列挙されておりますが、これまでの北区飛鳥山

博物館をつくってこられた学芸員の方々が世代交代の時期に入っているということがありまして、どのように、今までの遺産を継ぎながら新しい北区飛鳥山博物館を創造していくのかというような課題に迫られています。加えて収蔵スペース不足が、全国各地の博物館の悩みとなっております。NHKの番組の中でも、今回の博物館の改正の流れの中で全国各地の収蔵庫がいっぱいだという事案が紹介されていきました。館内だけではない、資料の収蔵場所をどう確保したらいいのか。これも際限なくというわけにはまいりませんので、当然のことながら博物館の機能の一つである選別という機能を使いながら、どのようにより効果的に北区の文化財を残し、どう活用するのかという見通しの中で、それを進めていくことになると思います。

それから運営体制の維持、設備の改善。常設展示については、新しいように見えて実は作られてからかなり時間がたっています。先ほど申し上げたようなデジタル機器、デジタルDXの時代で、そういう最新の技術をどう駆使していくのか。あるいは活用するのかしないのかということも含めて、考えていく必要があると思います。それに連動して、広報活動の在り方も、やはり変化していくと思われまますので、今回は忌憚のない形で、お互い思っていることを勝手に言い合えればいいかなと思っておりますので、ぜひ委員の先生方、よろしくどうぞお願い申し上げます。この参考資料を説明していただくとありがたいですが。

【事務局】 「これからの北区飛鳥山博物館のあるべき姿」という参考資料でございますが、こちらのほうは平成26年、2014年にまとめているものでございます。平成17年の「北区飛鳥山博物館のあり方の実施と反省」というのが、その前のときにまとめたもので、これは平成17年の在り方を実施して、その反省をもとに平成26年にまとめたものでございます。

【議長】 ありがとうございます。こちらも参考にさせていただきながら、ご発言いただければと思います。

北区飛鳥山博物館は、いくつかの時期ごとに中長期計画を立て、方向性をきめるという、学校でいえば学校経営計画と申しますか、博物館経営計画を立てております。しかも自分勝手に決めるのではなく、区民の方々の意見を踏まえて、確実にそれを進めてきているということでございます、こちらも参考にさせていただきながら議論を進めていきたいというふうに思います。

それでは委員の方々から、ぜひ忌憚のない意見をというように思いますので、いかがで

しょうか。どなたか最初に口火を切っていただけると、大変ありがたいのですが。

はい、お願いいたします。委員B。

【委員B】 ご説明、ありがとうございます。

中長期的にあるべき姿を計画されているという運営方針は、大変非常に素晴らしいなどというふうに思いました。そこに、議論の一端として参加させていただくことを光栄に思います。

まず、ご質問させていただきたかったのが、運営体制の維持というのは具体的にどういった今課題を抱えていらっしゃるのかという点をお聞きしたいです。

それから、常設展示のリニューアルという点につきまして、先ほど君塚会長のほうから、実は割と時間が経過しているというお話がありましたけれども、どの程度リニューアルの喫緊性というか緊急度があるのかという、その辺の温度感というものを伺いたいです。

【議長】 事務局、よろしくお願いいたします。

【事務局】 運営体制の維持でございますけれども、今、博物館、二係体制になっておりまして、管理運営係と事業係がございます。事業係は、かつての文化財係と、博物館が合わさって成り立っております。この体制と人員配置を今後も継続してやっていきたいというようなことでございます。

常設展示のリニューアルに関してですが、ちょうど開館から10年がたちましたときに部分リニューアルをすることになり、正確には12年目に部分リニューアルをいたしました。しかし、そこから数えても、もう10年以上たっており、それまでに積み上げてきた、いろいろなこと、新しい資料などの蓄積があるということ。また、機器類の劣化がありまして、メンテナンスに非常にお金がかかっているということ。展示を表現する方法として、今まではパネルや、映像など、そういったもので、その場にあるものを使って展示表現をするものだったのですが、最近ですと、スマホですとか、もう少し広がりを持つ形で展示構成ができるのではないかと、もう少し異なる展示の形にできるのではないかと、リニューアルが必要ではないかと考えております。

【議長】 委員B、いかがでしょうか。

【委員B】 ありがとうございます。よく理解できました。

感想になってしまいますが、常設展示のリニューアルに関して、メンテナンスという管理の面からも、これは本来どう見せるかということの見直しについても、課題感を大きく持っていらっしゃるということはよく理解できました。一区民としても、今の常設展示も非常に好きのすけれども、刷新されていくのであれば非常にそれは期待したいところかなと思っております。ありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。

ほかの委員の皆様方がでしょうか。どの角度からでも構いません。いろいろな角度からですと、それだけ議論も豊かになりますので、よろしく願いいたします。

委員D、何かございませんでしょうか。

【委員D】 港区の白金台にある郷土歴史博物館のような、もともとの建物がすばらしいところで、少し古めかしい感じですが、中に入るとベジタブルフードとか、結構若い人とか、健康食に起因するような感じのフードや、ドリンクを置くなどというふうになっているところがあります。今、そこにタワーマンションが建つなど、いろいろなところで昔とは随分変わってきていて、郷土史とか博物館にもともと興味がある人も、もちろん来るのですが、そうではなくても入ってみようか、入ってみたいなど思うためには、そのエントランスというか、そのようなところをカフェとか、博物館で売っているグッズとか、そのような物もデザインを変えたりすると、若い世代の人とか、あとはこれからどんどんマンションなども建ってきますので、お子さんを連れて来るような感じで、ずっと入れるような、そういう昭和、平成という形でなければ新しい令和のお客さん呼び入れるための、そのような形もあるのではないかと思います。

以上です。

【議長】 ありがとうございます。大切な視点だと思います。その点についてはございますか。

【事務局】 ありがとうございます。やはり今までの博物館ユーザーだけではなくて、新

たな博物館ユーザーの獲得ということで、今までの感じでいきますと、ご年配の方が博物館をご利用される率が非常に高いとっておりますが、もう少し若い世代ですとか、まさにあらゆる人のために博物館はあるべきだというふうに思いますので、そのような工夫が求められるのかなと感じております。

【議長】 ありがとうございます。

ほかの委員の方々、いかがでしょうか。委員Eお願いいたします。

【委員E】 意見を少し言わせてください。

そもそもですけども、周りの方々から北区って何と問われたときに、一瞬たじろぐのですけども、この前渋沢栄一をやったあそこだよと、赤羽だよと、そのぐらいで終わってしまうことがいつも残念に思います。実はあれこれこんなものがあるって、いいところだよというのが、時間がかかりながらもいろいろ話しているところです。とても残念に思っているところですけども。

今、こういう話の場に招かれ、意見を言わせていただく立場になって、改めて考えると、北区というのは、もしテーマ性として掲げることがあるとしたら、歴史あるまち北区とか、歴史のあるまち北区ですとか、そんな表現も一つ大胆に打ち出してもいいのではないかと。花川前区長がおっしゃっておられた、長生きするなら云々、子育てするなら云々という、例のキャッチトークです。あれはいいと思っているのですよ、政策目標の一つに大きく掲げていただいて、申し上げたとおり、歴史あるまち北区というようなテーマを強く打ち出してもいいのではないかと考えているところなので、その主体としたいところは博物館なのです。そのような政策目標をしっかりと位置づけられるような動きを、ぜひ北区飛鳥山博物館さんにさせていただきたいなど。

つまり、もう一つの主体の行政、区長を含め職員が、北区というものに対して、どのように対外的に訴えかけていくかという、方法の一つとして、北区にはとてもすごい歴史があるのだぞと。さっきの文面なんかには3万年云々とありましたけど、荒川区は海の中、練馬、豊島、板橋辺りは大草原の中、その中にあって北区はあったのだというようなことは、ここに来れば分かる話であって。でも、一応しっかり伝えないと分からないこともあるのですが、それぐらいの気概を持って、北区は歴史が3万年あるぐらいのことを、ほかの方々にもいいようなポジショニングが既に確立されているのですよ。そのぐらいの

ことは言っていかなくちやならないと思います。

つまり、北区のシティプロモーションであって、北区を地域戦略の中で際立たせるのの一つ重要なテーマになってくると思うのです。渋谷栄一どころじゃない。渋谷栄一とペアとなるかもしれませんが、そのぐらいの位置づけで北区の歴史を取り上げていただきたいなという気持ちがあって、ここのお仕事であるとともに、北区行政、つまり区長も含めて積極的に取り組んでいただきたい。これは少しこの場での意見とは違うのですけれども。ざっくばらんに何でも言っていると会長が言っておられましたので、こんなことを申し上げた次第でございます。

実は先だって北区基本構想が発表されるという前に意見交換会なるものがありまして、そこにZOOMで参加させてもらいました。基本構想、結構練り上げられている部分があって、でももう少し何とかしたらいいのではないのということで噛みついた部分があるのですが、少し反省もしております。文言の一つとして、将来像を実現するための基本目標が三つあって、その一つの中に5項目あるのですが、5項目の中の一つに、観光支援プロモーションとあります。シティプロモーションの中にシビックプライドなる文言が出てきたのですが、これには一瞬びっくりした次第でありまして、そのシビックプライドというのは多分歴史じゃないかと。ほかに無いのです。もう一回繰り返しますが、荒川区は海の中、あとは大草原。ここに3万年前に北区はあったという、これがシビックプライド。つまり北区民に共有できる無形財産みたいなものですね。そういったものを提示できるいい機会になってきたなど。

基本構想の中に打ち込まれているわけですから、基本構想の中にシビックプライド、プライドとは一体何だということで調べたら、我々が住んでいる地域だと。ここは3万年前からあったのだということ、訴えかけることが必要ではないかなと思っております。これこそ、会議の中でこれからもご努力を引き続きしていただきたいですけれども、北区行政の位置づけの中であって、ここはとても大事なところということ、山田区長に提案をかけたみたいなのとおるところでございます。

ざっくばらんな意見ということで、すみません。

【議長】 とても元気のあるすばらしい意見だと思います。そういう姿勢で、やはり博物館の在り方、今日のテーマになっている北区の博物館とは区民にとって一体何なのかというような原点に触れるようなご発言だと思います。ありがとうございます。

何か事務局のほうでございますか。大丈夫ですか。館長、お願いいたします。

【館長】 ご意見ありがとうございます。やはり北区って、確かに何なのだろう、何を売りにしたらいいのだろうというものは、確かに迷っている部分があります。ぜひ、今いただきましたご意見を基に、何か政策的に前に打って出るようなものを考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

【委員E】 ちょっといいですか。

【議長】 はい、どうぞ、もちろんです。

【委員E】 私ごとですけども、滝野川三丁目にある「四本木稲荷神社」というところで、ボランティアで清掃活動をやっています。清掃活動、整備活動、それから運営活動もやっています、実は最初の3年前、「四本木稲荷神社」って砲兵工廠の技術がたくさんあるところでありまして、絶対これは売物になると思って、人は集まってくるのだろうと、少し風呂敷を広げたのですけど、見事にそれはひっくり返りました。地域住民の方々は、あるぞと言っても寄ってこないのですよね、歴史については。ちょっとさめた話になってしまいましたけども、歴史というのはざっくばらんに言うと、あまりぱっとしないものだ。日常生活ではないなと。でも、知ると面白い、興味を持っている方々にとってはとても大事なものだというふうになっております。これは私ごとですけども、歴史というのは日常生活の中においては大事なものではないかもしれないけれども、でも、それが日常生活支えるものだという認識を、やっぱり強く誰かが言っていないと、ついて来ないと思っっている次第でございます。

【議長】 そのとおりだと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。委員C、お願いいたします。

【委員C】 10年後はということで、すごく壮大な話で、こういう話って楽しいですね。

これも、そもそも論かもしれないですが、区の行政も関係しているということもあっての質問になるのですが。北区飛鳥山博物館としては、ターゲットというか、誰に来館して

もらいたいというか、つまり、ローカル、北区とか、いわゆる23区とか東京とか、いやもっと全国区にしたいのだという思いがあるのか、その辺というのはどうですかね。

【事務局】 来ていただきたいのは、まさに全国区と言いたいところですがけれども、まずは北区の自治体の博物館でございますので、区民の皆様により活用される、愛されたいだけのような博物館を目指しているところではございます。

ただ、内面的な区民向けというだけではなく、今、委員のお話もありましたけれども、北区ってこんなにいいところだよ、こんな歴史があるということは、もちろん区民もそうですけれども、区民以外の人にも知っていただきたいところがあります。その区民、北区以外のところというのが、どこまで広がるのかということでございますが、やはり理念といいますか、区としてはあらゆる人のために、あらゆる人に向けて情報を発信して、そして、博物館に来ていただきたいというのが目標とするところなのではないかなと思っています。

【委員C】 続けていいですか。

【議長】 もちろん。

【委員C】 マーケティングなどを行うと、大体ターゲットを絞るじゃないですか。そのターゲットに向けて、例えば商品を開発していくとか、博物館だと展示を考えていくということになると思うのですが、基本的に区民が基本であるということには私は賛成です。やはり地域に根差した博物館であってほしい。地域から離れていくと、そこら辺どこにもあるような博物館と同じなるといえるのか、どこも工夫しているのでしょうか、別に北区にある必要がないというような展示ですとか、そのようになってしまったら、私はつまらないと思います。やはり北区にある意味を大事にしてほしい。私は、まずは、北区民だと思います。小学校の校長もやっているのです、学校関係者や、町会関係者などもいらっしゃるのですが。そういうような方たちが来て、そして楽しんでくれる。そういうところをまずは目指してほしいと思います。

そうやって地域に根差した活動をしていく中で、もしターゲットが広がっていくなら、それは好ましいことであるし、うれしいことであるというような感じですね。という思いで、ちょっと10年後を考えてみたいと私は思っているのですけれども、そこら辺はいか

がでしょうか、皆様の思いもあるのかなと思うのですが。

【議長】 ありがとうございます。今先生が、発言なさったことは非常に大切だと思います。特に、例えば東京は観光地でもあるので、その観光でこちらに来られる方々で、ここに立ち寄ったという方も当然視野の中に入っている。ただ、やはり希望は先生がおっしゃってくださったように、区民であり、あるいはこれからの北区を担う子どもたちだと思います。ですから、そういう人たち、本当に若年層も含めて、どう利用されていくのかということでのポイント。そこが絶対に動かしていけないポイントだとは思いますが。ただ、その中で先生がおっしゃるようにバリエーションを考えていくということは、非常に大切なことというふうに思います。ありがとうございます。

委員A、いかがでしょうか。お願いします。

【委員A】 私の方から少しテーマを絞って。飛鳥山博物館の重要なキーワードの1つになるのが荒川だと思います。荒川との関わりが感じられる博物館として、もっと展示や教育活動を充実させていけるのではないかと考えています。現在、常設展示にもありますように、荒川の生態系については、生物多様性の保全などの現代的な課題を考える上で重要で、自然体験等、荒川の資源を活用していくことはこれからもっとできると思います。また、今週も風水害がニュース等でとりあげられ大きな話題になっていますが、そのような観点において荒川はキーワードになり、荒川の治水は地域にとって重要なテーマになると思います。さらに、私たちの暮らしを支える水という観点では、北区の歴史や文化、産業を支えてきたのは荒川であるといえます。以上のような観点から、荒川と言うキーワードが伝わるような博物館を目指すということもあるのではないかと考えました。

【議長】 全員の先生方の発言が終わりました。この点について、事務局から何か、ございますか。

【事務局】 ご意見、ありがとうございました。

当館の基本コンセプトは、大地・水・人ということですので、まさにそれに合

致したご提言でした。水とそこに住む人々との関わりを、もう少し大きく捉えていくということでした、そのような形で検討させていただきたいと思います。

【議長】 ありがとうございます。お配りいただいた「あり方の検討」についてのペーパーの裏側の参考にも、大きな地震といった災害が起きる可能性が高いと。特に北区の場合は水害ですね。これが北区の歴史をつくってきた大きな要素でございますので、それとSDGs、そして学校教育の中での防災教育、これらは切り離せないと思うので、そこと博物館がどういうふうに機能していくか。例えば展示ですね。常設展示のリニューアルで、少し荒川の部分がスペースも含めて若干弱いという部分もございますので、そういう部分をより、ただスペースを広げるということではなくて、防災教育等々に活用し得るような中身を伴った形で拡充していくなど、十分考えられると思います。ありがとうございます。ほかに何か。

先生、どうもありがとうございました。

【委員D】 途中で申し訳ございません。ありがとうございました。

(委員D 退席)

【議長】 ほかによろしいでしょうか。委員B、お願いいたします。

【委員B】 ここまでの皆様のお話をお聞きして、思ったことを述べさせていただきます。先ほど館の課題に関して、運営体制の維持について質問させていただきました。職員組織ですとか、学芸員の方の交代も、そこに絡むと思います。今、会社でベテラン層が退職されて、そのナレッジをいかに継承していくかというのが、課題となっているというデータが上がっています。そのような意味で博物館としても、学芸員の方もそのナレッジを管理して継承していくということが大事とお聞きしていました。

このナレッジという考え方は、博物館そのものとも関わると個人的には思っていて、博物館は、僕が思うに単に資料を展示してあるというだけではなく、知識です。職員の方の皆さんが担当している講座ですとか、話されている情報ですね、北区に関するいろんな歴史の情報ですとか。それから、例えばさっき阿久津先生がおっしゃった、ちんどん屋を見

て、それが昔のコマーシャルだと子どもが気づくという、そういった気づきですね。そういったものも、今ナレッジというふうに考えると、博物館ではそのナレッジの集積庫でもあるのかなと思いました。

今後10年を考えたときに、資料を単に押していくというだけではなくて、そのナレッジを広く区民に共有していくということが非常に重要と思いました。というのも、資料というのは、やはり現場に来て、博物館に来て、見てこそ意味があるものだと思うのですが、そうした知識や、ナレッジというものは、必ずしも博物館に行かなくてもある程度区民の方に共有できるものじゃないかと思います。そのためにはデジタル化ということが必須になってくるとは思うので、ナレッジの共有ということのデジタル化というものは、私は非常に重要な10年後を考えたときのキーワードになると思いました。

最初に私がこの委員に応募させていただくときに、地域の郷土資料館、博物館の意義とは何だろうと考えたときに、個人的な結論、究極の目標としては、やはり区民が、北区に住んでいる人が、北区に住んでいてよかったと思うことが究極の目標なのかなと思っています。

そのためには、確かに自分の住んでいるところに、こんなに有名なものがあるとか、こんなに価値があるものがあるという、「物」があるのも、もちろんいいのですが、それだけではなくて、一見、そういったものは国立博物館とか、大きい博物館に任せておけばいいわけで。地域の博物館は、いわゆる教科書には載っていないかもしれないけれども、実はこういう文脈で見ると面白いとか、先ほどのちんどん屋もそうですね。そして、ほりぶんとというスーパーがあって、そこにいたちんどん屋、ちんどん屋というものが今で言うところの、昔の人にとってのY o u T u b eだというように子どもたちがもし気づいたとしたら、その気づき自体が多分北区に住んでいる誇りにつながっていくのではないかと個人的に思います。何もすごいことが誇りになっていくというよりは、その気づきとか発見みたいなものが、区民の心の誇りになっていくとか。そういったもののきっかけづくりみたいなものが地域の博物館に求められている。そういったものができる場所なんじゃないかなと思います。

先ほどの荒川との話というのも、まさにそうだと思います。荒川って、多分区民の方には大きな川ぐらいにしか思っていないかもしれないですけども、そうじゃなくて住んでいる地域とか歴史に深く関わりがあるということ。ただの大きな川ではないということ。あなたの住んでいる地域に、こういう目線で見ると、こういう発見があるというような、

そういうストーリーとか気づきのようなもの、そういったものを提供してあげるということが、できるのではないかと思います。

そういったストーリーとか気づきとかを含めたナレッジの共有というものを、私としては期待したいなと思いました。

【議長】 ありがとうございます。大変いいお話だと思います。気づきとか発見だとか、そこには心の動きとか感動というのがあると思います。それが博物館の原点の一つだと思いますので、今の委員Bのご発言、いろんなヒントが隠されているような気がいたします。しかも、学芸員の皆様が担当されている講座も含めて知的財産であると。これをどのように継承・発展されていくのか、という視点は、大変重要だと思っております。ありがとうございます。

今日は何でも結構ですので、いかがでしょうか、ほかに。

はい、どうぞ。

【委員A】 今、委員Bがおっしゃったようなナレッジを蓄積し、共有することに関して、何か歴史的な展示物があったとして、それを見て、その価値について経験をもとに語る学芸員が限られている場合には、来館者が有しているナレッジを活かすことが重要になってくると思います。回想法等のイベントの際には、ご高齢の来館者の方々が学芸員にはない視点や知識を提供してくれることもあると考えられます。来館者も一緒になって質の高いナレッジを蓄積していく仕組みづくりも重要になるのではないかと思います。ご意見をお聞きしていました。

【議長】 おっしゃるとおりだと思います。その部分はやはり大切に、デジタル化と絡めて効果的に導入していくというようなことの必要性だと思います。非常にありがたいご発言だと思います。

ほかにいかがでしょうか。委員E、お願いいたします。

【委員E】 ご提示いただいた資料の記載に、館の抱える課題云々ということで数行にわたって書かれておられますが、ざっくりばらんな話になってしまうのですが、要は予算措置

の問題で、いかにこの博物館にお金を、予算措置というぐらいですから、増額の方向にもっていけるかという、その政策的な課題が大きいのかなと思います。抱えている問題は大きいですが、まあお金の問題、言い方が少し悪いのですが、その辺り行政の動かし方、担保ができない状況でも周りの方々が、博物館を評価していただけるような形で動いていかなければいけないかなというふうに思ったところです。館の努力もあるにせよ、先立つもの云々という形ですから、それはそのように見えたというところです。

あわせて、最後の広報のさらなる充実ですが、これは前回も申し上げましたが、北区ニュースを利用する際に、〆切があるというのも分かりますが、決められた場所に決められたスペースを飛鳥山博物館として、コラムなどのコーナーとして、持っていただきたいと、私は思います。これはもう博物館だけの問題ではないのですが、やはり北区に対しての認識を、徐々に強くしっかりと高めていただけるような措置ではないかと思います。コンテンツについては四季に応じていろいろ増減があると思いますが、ここを見れば、面白い歴史の話が出ているよというぐらいのところから、多くの区民の方々が少しずつ注目していただけるように、そうすると広報活動がかなえられていくのではないかと考えておりました、繰り返しになりますけれども、北区ニュースの紙面の拡充ということです。要望を上げておきたいと思います。

あわせて、もう一つ。王子駅前のビルも、王子駅の線路側に建つビル広告ですけども、広告看板に、飛鳥山博物館の掲示ができないかということ、いろいろ動いていただく、これも予算措置に絡んできますが、効果があるのではないかと思います。湘南新宿ラインを使って埼玉県のほうから池袋に通っている、ある証券会社の女性の方がふと言われて、王子駅に何があるのかと。アジサイでしょうと逆に言われるのです。確かにそうかと思いません。では、同じ視点で何か広告看板があるわけですから、そこに飛鳥山博物館云々という文言を入れていただけたら、一つは面白いのではないかと考えているところです。広報活動については以上です。

【議長】 ありがとうございます。広告、広報はものすごく大切で、参考になるご意見かと思いますが、何か事務局のほうからございますか。

どのように周知する、知っていただくかは、非常に大切ですので、そのところで戦略の中に入れておく必要が当然あると思います。

これは、私からですが、広報のさらなる充実と書かれていますが、区のほうで、今、広

報上、これが課題だと思う点は、具体的にいうと、どういうことがあるのでしょうか。

【事務局】 館の広報に関しましては、委員Eがおっしゃっていたように、北区ニュース、催しもの案内といったペーパータイプの物もあれば、ホームページもありますし、それから、今、力を入れているのはSNSでございます。SNSは、不特定多数の人にどう伝わるのかというところが課題かと思えます。ある一定の年齢層のところで機能すればいいのか。あるいはもっと別なものを、これからのツール、まさに10年後の話ですので、これからのそういった広報媒体が出てきたときに、どういうふうにそれに対処するのかというところが課題になってくると思っております。

【議長】 ありがとうございます。確かにそのとおりですね。分かりました。

例えば、これからの利用者層を育てていくという意味では、小学生とかですね、やはり物すごく大切だと思うのですけれど。委員C、先ほどプッシュ型という話がありました。確かに情報を供与するときも、受け身ではなくてどんどん押していくというやり方というのは効果的であるというお話がありましたが、いかがでしょうか。そういう広報という点で。学校の立場から子どもたちに対しての周知の在り方や、このように伝えるよいという情報提供のやり方だとかという点で、何かヒントになるようなお話いただけませんかでしょうか。

【委員C】 そうですね。「あり方の検討」についての裏面のトップで、子どものためには今後どのような博物館が理想なのかという、ここに子どもがいて、次は高齢化社会、そして区民にとって子どもが出てきているというのは、私はすごくうれしく思いました。特に学校単位としては授業がある学期中ですけど、夏休み中は、ぜひアピールしていただき、子どもを呼んでほしいと思います。学校現場は、チラシが多いので、通常送ってきたものは配布しません。ただ区から送付されたものは配っています。区の交換便送ってきたもの。さらに言えば、先ほどお話に出ました、校長会とかでお話いただき、その上で配っていただいたりすると、やはりさらに効果が上がると思います。区の博物館でありますので、区の事業として子どもたちに呼びかけるというようなスタンスで、これからも広報していただければ本当にうれしく思います。

あともう一個話していいですか。

【議長】 はい、どうぞ。お願いいたします。

【委員C】 私は実は北区出身です、北区赤羽の。教員時代はほかの区を転々としましたけれども、校長で北区に帰ってきまして、とてもうれしく思っています。飛鳥山公園に小さい頃遊びまして、遊具が全部そのままでした。私、最初に来たときに感動して、とてもうれしかったと覚えています。余談でした。

有馬委員の、歴史あるまち北区ということで北区の特色ですよね。私は本当にそのとおりだなと思いました。北区ならではの何だろうと思ったときに、渋沢があって、あとは個人的には田端文士とか、あとは文士村とか中里貝塚だとか、基本的には今ある展示は歴史を基本にしていますよね。その基本は崩さないでほしいかなと思います。それが北区だろうと。基本にいかにか北区らしさを出していくかということ、追求したいというのが私の中では基本があります。

渋沢の歴史に関してはとおしでは関係しないまでも、1万円になるということは物すごいことだと思うのですよ。誰もが知る人になるという、今でもかなり知っていると思うのですけれども。それこそ髪の毛が黄色い若いお兄ちゃんも1万円札ぐらい見たことあるでしょうから、認知度が上がると思うので、渋沢という強みは一つ、これからは増してくると思います。そういう北区らしさを生かして、土台というか基礎は歴史において、有馬委員がおっしゃるように、歴史あるまち北区、すごくいいフレーズだなと思いました。でも、そこでおっしゃるように薄く話をするのは、つまらない気もしますが、また広げていきたい思いもあります。

【議長】 ありがとうございます。大切なご意見ですね。未来に力を与えてくださるご意見だと思います。ありがとうございます。

ほかにかがででしょうか。

本日、私のほうで今日の議論をこうだとまとめるつもりは全くございませんので、どんどん出していただいて、それが次回の土台になっていけばと思っておりますので、どんどんご発言ください。

委員B、お願いいたします。

【委員B】 何度も発言してしまって、すみません。

歴史を軸にした展示というのは私も同意です。ただ私の観点としては、先ほども言ったように渋沢栄一はキャッチとしてあって、さらにそこから入ったところに、例えば、私は滝野川に住んでいるのですが、滝野川って、そういう意味ではあまりないのですよね、キャッチになるようなものは。しかし、石神井川沿いの景色はやはりきれいで、例えば石神井川沿いの景観の変化とか、そのようなところに対して触れてくれるのが、地域の博物館なので、ぜひそのようなことなども扱えるような博物館になってほしいと思っています。

先ほどプッシュ型というお話もありましたが、すごく効果があると思います。一方でより広く考えたときに、プッシュしていくためには、プッシュできるものがないといけないと思います。今皆さんは、デジタルデバイスを持っているので、そういったものに対してプッシュしていくということが、今後はなお不可欠だと思います。そのようなときに、どういう形でプッシュしていくかというのは、そのデバイスだったり、メディアだったりの変化してゆくものだと思いますが、プッシュしていくためには、あるいは先ほど私が申し上げたナレッジを共有していくためには、伝えていくものであったり、蓄積であったりというものがまず必要で、そういったもののデジタル化というものが、まず大前提になると思います。

少し大きな話をしましたけれど、今日たまたま職員の方にご紹介したいなと思って持ってきたのですが、私が仕事で関わりのある、ある会社が作ったARのサービスです。ARと書いてエーアールですけど。ARのアプリとかブラウザで見られるサービスを作成してしまして、もしかしたらご存じかもしれないですけども。主に関西のほうで自治体のまちおこしとかに使われているそうです。例えば、史跡に行ってスマホをかざすと、そこに当時の姿が出てくるとか。よく、実はすごく歴史上価値のあるお城があったのですが、今はもう更地になっていて跡地しかない。そのようなときに、これをかざすと、その当時の姿が見えるみたいな。そういったものに使っているみたいです。

このように使うと、例えば、今、北区のあちこちにいろいろ案内板を立てていらっしゃると思っています。私、好きでたくさん読むのですが、ああいったところに例えば一つこういう仕掛けを持っておくと、実はその案内板を前にしてスマホを入れると当時の姿が見えたりとかというふうに、博物館に限らない北区全土で博物館が提供するナレッジ、歴史として北区の歴史というものを体感できるということができそうだと思います。すみません、営業するわけではないのですが、こういうサービスがありますというご紹介だったのですけども。

このような形で、デジタル化を、単にホームページを充実させるとかというよりも、そういったデジタル用のアプリを持っていくことで、それを活用して、デジタルのサービスにつなげていきたい。博物館だけにとどまらないナレッジの共有みたいなものができそうだと思っていました。なので、こういうアイデアがありますというだけの話なのですけれども。

【議長】 私、前に八王子城を歩いたときに、やはり同じような技術を使ってスマホで、まるで八王子城に人がいるような映像を体感することができたという、経験がありますので、今のお話はよく分かります。ですから、ある種デジタル技術を、例えば歴史の共感だとか共有だとかというときに、どう使えるかということの話の一つだったかと思います。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか、まだ時間が。お願いします。

【委員A】 飛鳥山博物館について、現在の学芸員の方々が10年後どのような博物館になって欲しいと思っていられるのか、そのあたりのご意見もぜひお聞きできればと思ったのですが、いかがでしょうか。

【議長】 ぜひ答えてください。学芸員さんお願いします。

【学芸員】 普段もよく10年後のことを話しているのですが、これまでの当館の歩みがありますので、それを継承しつつ、でも新しくするところは新しくして常に成長を続ける博物館でありたいというふうには思っています。それから、この博物館は飛鳥山公園の中にあって、ふらっと立ち寄りやすい場所ですが、これらはにぎやかな暮らしの中にあるということで、ほかの博物館に比べるとにぎやかな雰囲気のある博物館にはなるのですが、ぜひこちらから何か打って出ていく挑戦を続けないと、やはり施設も古くなってしまおうので、このにぎやかさを維持できるように常に挑戦を続ける博物館でありたいというふうに考えています。

【議長】 委員A、いかがですか。

【委員A】 ありがとうございます。急に伺ってすみませんでした。これからも挑戦を続けていくと言う、今後の成長が期待できるご発言でした。皆さんお一人お一人がこれからこうしていきたいと思うことについては、私たちも聞いてみたいという思いはありますので、ぜひ今後も皆さんのお考えを聞かせていただければと思っています。

【議長】 ありがとうございます。まさに本当にそのとおりで、10年は速いです。そうそう時間があるわけではないので、ぜひ挑戦し続けるというようなお話がありましたので、現在地に止まっていないと。常に違ったことを挑戦し続けるというような力強いお考えだというふうに受け止めました。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。何かございますか。学芸員の方からでも構いません。

本日の参考資料に書いてあり、幾つかの論点がありますけれども、どれもこれも結構重い論点です。例えば学芸員の交代でどのように継承していくかという話は、先ほどから何名の方からも出ておりますし、それを具体的かつスムーズに成し遂げていかなければいけないという現実的な問題もございます。

もう一つ、少し議論しておきたいと思いたいのが収蔵庫の問題です。収蔵スペース不足というのが現状あるということです。少し足りない状況の中で、ここから先いろいろ遺構調査が進んで、収蔵資料が増えてゆくときに、どう対応していったらいいのかと。少し博物館、若干この収蔵庫に関しての議論が弱かったような気がします。ですので、実際今どこに行っても満杯であるというようなことがあり、では一部デジタル化してというような話もありますが、では現物を捨てていいのかという話にはなりません。大変難しい、ある種岐路に立っている論点なのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

有馬委員、何かございますか、この点について。

【委員E】 技術的なことが絡むので、具体的に意見として申し上げるのはなかなか難しいです。

【議長】 そうですか。いかがでしょうか、この点について、今ある現実問題として収蔵庫は幾つありますか。

【事務局】 収蔵庫は当館の地下にございます。それと、今まさに増え続けているのが埋蔵文化財の発掘調査で出土した資料でございます。博物館ができた当初から文化財係という係が別にございまして、文化財行政については、そちらで担っておりました。その文化財係が小学校の余裕教室を倉庫の代わりにお借りして利用していたところでございます。しかし現在、少子化で教室が空いていますが、そこをまた別の形で区民が利用する、あるいは学校で利用するということになりましたので、廃校になった学校に集約した経緯がございます。またその学校も、場所、土地を利活用するということで現在群馬県川原町の廃校になった中学校の1階2階部分で収蔵しているところでございます。

あともう1ヶ所、マンションの1室を区民施設としてお借りし、収蔵スペースにしているというような環境でございます。

【議長】 ありがとうございます。本館だけではなくて、外部に幾つか収蔵スペースがあると。これは区内の公立博物館と同じような傾向ですが、意外と知られていないですね。こういうところにも、目を向けながら10年後を考えていかなければいけないと思います。委員E、お願いします。

【委員E】 とある医薬品メーカーでは利用されているのですが、物流倉庫、つまり立体倉庫を、本当に限られた空間ですけど上手に使っているのを目にします。この歴史資料は、立体倉庫ということには、予算的な問題いろいろあると思われ、空調が調われ、当然医薬品レベルになりますと空調関係は整っていないと思われませんが、そうなる立体倉庫というのは、利用可能でしょうか。

【議長】 その点はいかがですか。

【事務局】 現在借用している小学校の教室は、空調関係に左右されないような考古資料を収蔵しています。夏は暑く、冬は寒いというような場所でございます。考古資料、埋蔵文化財の考古資料というのは、例えば土器などでは、大きい物でも高さ30センチメートル程度ですが、箱に収納できるような物ばかりですので、展示をするケースなどに収納して、それで積み上げていくという状況で、棚や床に積み上げている状態なので、コンパクトに収納できていると思います。

ただ、生活用具などの民俗資料になりますと、形も大きさも、材質も全く異なるものが多いため、収蔵する場所に関しては、非常に気を使わなければいけないということで、そこがやはり頭を悩ませるところと思っています。

【議長】 ありがとうございます。いずれにしても、直ちに解決することは、なかなか難しい問題ではありますが、資料に書かれているように、館外での資料収蔵場所の確保ということが、避けられない次の作業工程になってくると思います。将来的に北区飛鳥山博物館がどれぐらいの収蔵資料を抱えるのかということの予測を立てるのはなかなか難しい部分がありますが、ある程度想定しながら今後の計画を立てていくということが、必要になってくると個人的には考えています。ありがとうございます。

【委員E】 3万年とはそういうことですね。単に文言ではなくて、そこを実証するものだからですね。現にあるのですからね。

【議長】 そうですね、そういうことにもなるかもしれません。

【委員E】 練馬区と全然違いますよね、話がね。

【議長】 そうですね。そういうことになると思います。カバーする年代、時間軸が広がれば広いほど集まる物が増えてくるのは当然ですので、しかも博物館の資料、特に歴史関係の資料は必ず増加していくもので、例えばスマートフォンを含め、そのようなものも資料の収集対象になってきているということがありますので、減りはしないと思っています。では、どういう形で保存・管理し、活用していくのかということも含め、考えていく必要というのは直近の課題になっていると思います。

ほかに何かございますか。なければ、そろそろ閉じる方向でと思いますが、いかがでしょうか。何かございますか。

じゃあ、気をつけて。

【委員A】 失礼します。

(委員 A 退室)

【議長】 何か最後に特段ご発言はございますか。よろしいですか。

今日は私のほうで何かまとめるということはいたしませんので、意見交換、フリートークキングということで、このような形で終わらせていただければというふうに思いますが、今日、本当に様々なご意見をいただきました。今後2回目の協議会までにまとめて、来年度以降の検討につなげていければと思っております。

今日ご欠席の長濱委員から今お手元のほうにペーパーがあると思います、そのようなご意見をいただいております。

北区飛鳥山博物館のあり方の検討についての議題。

10年後こんな博物館になってほしいということにつきまして、思いを述べさせていただきますと思います。早過ぎる少子高齢化、相次ぐ自然災害、急速なデジタル化など博物館としての役割を原点に戻って、課題に向き合いながら再考する必要があるかと思っております。以下3点が主なものでございます。

有形無形を問わず確実に保存し継承していくことはもちろん、新たな文化財を収集し調査研究を進めていく。また、相次ぐ自然災害から文化財を守る。このことは本日あまり出なかったですけども、大切なことだと思います。

急速なデジタル化に対応しチャットGPTなどを活用しながら、住民により詳細な情報提供をしていく。そして生涯学習の場として、これまで以上に活用していく。

最後です。文化財を通して地域文化に参画していただき多様性社会において、男女、戸籍、年齢、障害者等を問わずきずなを深め、コミュニティーの場として存在し続けていく。

ということでございます。非常に重要なご意見だと思います。特に北区というコミュニティーの中で、この博物館がどういうふうにこれから活用されて新たな価値を生んでいくかという方向が、今日はそれぞれの委員のご発言から確認できたというふうに思いますので、その点を基盤にしながら、今日出していただいたご意見を、ぜひ来年度以降の第2回目の協議会、それから来年度以降の検討につなげてまいりたいと思っております。

ほかに何かございませんか。大丈夫ですか。

それでは、ないようでしたら本日の協議会の議事について、まだ見学等ありますので、これで終了とさせていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

拙い進行で申し訳ございませんでした。それで司会の方にマイクをお返しいたします。

よろしく申し上げます。

【事務局】 ありがとうございます。

それでは、館長より閉会の挨拶を申し上げます。

【館長】 本日は長時間にわたりまして、委員の皆様にご貴重なお意見、ご提言をいただきまして、誠にありがとうございました。

今年の3月に飛鳥山博物館は25周年を迎えまして、また本年の4月に前区長が退任いたしました。それと同時に新しい区政がスタートしております。この博物館行政におきましても、今、大きな節目を迎えているなというふうに感じております。しかしながらいつの時代におきましても、北区飛鳥山博物館の使命はより多くの方々に北区の歴史や文化を伝え、そして北区の郷土に愛着を持っていただいて、そして関心を持っていただくということを使命と捉えております。

本日、委員の皆様からいただきましたご意見、ご提言を私たち職員一同しっかりと受け止めまして、今後の企画や、また講座などの事業運営に生かしていきたいと考えてございます。本日は本当に皆様のご意見、ありがとうございました。

【事務局】 以上をもちまして、今年度第1回運営協議会を終了いたします。